

施策番号 2-1-4	施策名 地域林業の推進	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり			
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	佐々木快治	内線	410
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
森林が持つ多面的機能の理解促進と、機能に応じた森林の整備・保全をすすめます。		町民・町有林・私有林・森林所有者	<ul style="list-style-type: none"> ・森林が持つ多面的な機能について町民の理解を深める ・計画的な保育・造成等により森林を適正に管理する 				森林の持つ多面的・公益的機能(災害防止・水源かん養・生物多様性の保全・生活環境の保全・地球温暖化防止など)が発揮される
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 森林が持つ多面的機能を知っている町民の割合	住民意識調査	%	72.1	85.9	87.8	80.0	
② 適正に管理されている町有林面積の割合	森林調査簿より	%	98.7	99.3	99.1	99.0%以上	
③ 適正に管理されている私有林面積の割合	森林調査簿より	%	95.2	94.6	94.7	96.0	
成果指標設定の考え方	①段階的に町民の理解を進めていくという考え方により、目標を80%としたもの。 ②限りなく100%に近い適正管理面積を目指すもの。 ③木材市況の不安定な状況や所有者の意向に左右される側面もあるが、策定時より約1%増の96%を目標に設定。						

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	36,783	51,257
人工数(業務量)	0.7982	0.8924

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	町有林の施業については、計画通り実施し、植樹祭の開催時に合わせて森林の持つ多面的機能の周知もしているところであるが、前年度と比較しての達成度としては「成果は変わらない」と考える。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	各成果指標ともに、目標値と同水準かそれ以上となっており、目標については概ね達成できたと考える。ただ、適正に管理されている私有林面積の割合は横ばいであり、新たな森林管理システムや森林環境譲与税の活用など、今後の取組に工夫が必要な状況と考える。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町有林管理事業 ふるさと森づくり事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ・町有林管理事業、民有林振興事業ともに、補助制度などを活用しながら適宜、必要な施策を実施した。 ・地図情報のデータ化が実現し、今後は農業振興地域や森林環境譲与税の活用事業等、効率的な事業推進とサービス向上が図られると考える。 ・ふるさと森づくり事業において、森林の重要性を理解してもらうことを目的に毎年「町民植樹祭」を行っているが、参加者の固定化や減少が見られ、今後の事業展開に検討が必要である。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	近年の台風等の災害により、森林の重要性や環境保全、防風機能が再認識され始めている。町有林管理に当たっては、国も森林環境譲与税の導入や新たな森林管理システムを創設するなど、森林整備に取り組みやすい環境となってきた。本町においても、これらの動きを踏まえ、森林組合などとも連携しながら民有林整備を推進していく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

●課題① 幹線防風林の計画策定・整備 風害に直面している地域から、幹線防風林の整備を求める声があがっている。町として現状を調査し、客観的データに基づく防風林の整備計画を策定し、整備を進めていく必要がある。
●課題② 森林環境譲与税導入に伴う森林の適正管理 森林環境譲与税の導入に伴い、私有林の管理状況や所有者の意向を確認し、適正な森林管理を進めていかなければならない。
●課題③ 周知・啓発事業の見直し 森林の持つ多面的機能を周知する事業として、毎年「植樹祭」を実施してきたが、参加者の固定化や減少化などの課題があるため、啓発事業の見直しを検討していく。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	指標は概ね達成しており、効率的な事業推進に向け取組が進められているため、策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	客観的なデータに基づく整備計画の策定を早急に進めていくことが必要。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	もともとの数値が高く、行政としてできることには限界があり、実績からも後期実施計画策定時と比較して大きく前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果		○			
今後の取組に対する意見	防風林の役割を具体的に示し、防風林に対する意識を高める取組を進めてほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					